

[遺族] 岡根 真琴 氏(平成 14 年(当時 3 歳)、父を交通事故で失う)

[要旨]

○周りの人と母の頑張りのおかげで育つことができた

父親が交通事故で亡くなった当時、私は 3 歳であまり記憶がありません。当時、7 歳と 10 歳の姉が二人いました。母に当時の状況を聞いたのですが、嫌なことは忘れたい、あまり記憶がないと言っていました。

つらかったことはあまり無かったのですが、小学生の頃は、父親がいないことを言われるのが少し嫌でした。でも、母もつらいのを知っていたので、自分の中でどうにか消化しようということを、よくしていました。

周りにはたくさんの人に恵まれたと思っています。幼い頃から習っていた剣道の先生方が、父親のようにいろいろな所へ連れて行ってくださり、指導してくださいました。そのおかげで、しっかり、ちゃんと育つことができたと思っています。

父親がいたら違うのかな、悩みも解決できたのかなと思うこともありましたが、母が頑張ってくれたおかげで、他の方よりは悲しく思うことは少なく育つことができたと思います。

○同じ境遇の人達が交流できる環境が必要

今、交通遺児育英会の寮で生活しています。寮では、たくさんの同じ境遇の方々との交流を持っています。私は 3 歳の時でしたが、思春期に片親を亡くしている人もいて、いじめにあったという話を聞き、同じ境遇でも違うのだと、すごく切なく苦しく感じました。

母は、父が亡くなった時、追いかけて一緒に死んでしまおうと考えたことがあったようです。しかし、幼かった私を育てなくてはこの強い気持ちで、ずっと育ててくれました。母は強いと思いました。

私の母のように思う、遺された片親はたくさんいらっしゃると思うので、そういう方々が減ることを願います。

また、交通遺児育英会の寮のように、同じ境遇の遺された子達が壁を無くして話ができる環境が、これからもっと増えることを願います。